



二輪草だより

2022年2月号
発行:二輪草センター

医学生・研修医・女性医師の集い終了報告

二輪草センター 助教 菅野 恭子

令和3年11月29日に医学生・研修生・女性医師の集いが開催されました。毎年旭川医師会主催で行われていた集いが、昨年度はコロナのため中止しましたが、今年度はZoomを用いてリモートでの開催となりました。「研修医生活ってどんなもの？」をテーマにお二人の先生方にお話し頂きました。まずはじめは、旭川赤十字病院初期研修医の石川楓先生にご講演頂きました。旭川赤十字病院は救急研修が充実しており、当直は1年目ウォークイン、2年目からは救急車で搬送された患者さんの診察にあたるそうです。希望者はドクターヘリに搭乗することもあるそうです。研修医の指導体制は担当制になっており、担当患者さんの検査、処方などは自分で行います。相談しやすい上級医がいるので相談しながら診療にあたることができるため安心とのことでした。専攻科の選択で悩まれたそうですが、学生時代から志望していた小児科の他、実際働き始めると神経内科と皮膚科にも興味が出てきたそうです。悩んだ末、最終的に北海道大学の神経内科への入局を決めました。最後は自分の今後やりたいことを長期的にみて決めたそうです。ワークライフバランスのイメージとして仕事と家庭のどちらか2択を選ぶもの、人生の転機に考えるもの、一度決めるとある程度の期間かわらないものと考えていたそうですが、今回の講演を機にご自分で調べ、仕事と家庭の両方が充実するための調和をとれるバランスを探すもの、いつでもその時に応じたバランスを選択し直せるものであることがわかったそうです。現在は仕事も家庭も充実させていきたいと考えているとのことでした。



次にお話し頂きました旭川医大後期研修医の宮原樹里先生にはご自身の研修医生活についてお話し頂きました。旭川医大で初期研修後、富良野協会病院整形外科で2年間勤務された後、現在大学で後期研修中です。AO入試で入学し地域枠という制約があったため、学生時代のうちに整形外科に入局を決めていたそうです。科が決まっていたこともあり6年生秋のぎりぎりまでバスケットボールをしていたそうです。大学での研修の良さについてお話していただく中で、守られている点と仕事帰りにバスケットボールができた点を挙げられていました。選択科は専攻科に必要になりそうな科を選択したそうです。1年目の振り返りとして救急科を最初にとったのがきっかけだったこと、選択科を感覚で決めたこと、休みの日は遊び倒したことをお話しされました。2年目は色々手技が学べると考え、再度春に救急科を選択したのが正解だったそうです。その後は地域研修を経て専攻科である整形外科を選択されたそうです。研修中にいちばん大切なこととして2年間の研修中に身体的・精神的ともに健康に初期研修を修了することを最重要事項として強調されていました。その後は参加した学生と先生方が2グループに分かれて、ブレイクアウトルームでディスカッションをしました。期の近い先生と様々な疑問や不安を率直に話せる良い機会だったのではないかと思います。リモートでの開催でしたが、多くの学生さんに参加頂きました。最後になりましたが、主催頂きました旭川市医師会および北海道医師会にこの場を借りてお礼を申し上げます。またお忙しい中ご講演頂きました先生方にも深謝致します。



※講演会の様子を動画で配信いたします。URLは一斉メールでお知らせしますのでどうぞご覧ください。なお、配信期間は2月末から3月中旬までを予定しています。

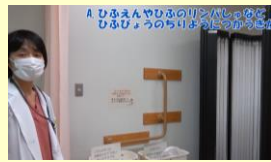
冬休みリモートキッズスクール終了報告

令和3年12月28日～令和4年1月13日に冬休みキッズスクールをYouTube上でリモート開催しました。おうち時間を楽しもう！のテーマのもと 職場見学、特別授業、昼食作り、工作、学生ボランティアの皆さんから感染症についてのクイズやメッセージ等、6つの動画を公開しました。



職場見学「お医者さんの一日」では救急科の砂田大貴先生にご協力いただき、お医者さんの一日に密着しました。普段見ることのできない救急外来やドクターカーの中を見学させてもらい、救急科のお医者さんの服や靴の秘密についても教えていただきました。

特別授業では「皮膚科の診療」と題し、皮膚科医で二輪草センター助教の菅野恭子先生に皮膚科についての勉強や診察の際、実際に使う機械を見学させていただきました。子どもたちにも身近な存在のほくろについての豆知識を学んだり、紫外線治療の機械についての説明、レーザー治療の機械では実際に使用する場面も見せていただきました。



昼食づくりでは餃子の皮で作るピザを紹介しました。餃子の皮があれば、あとはお家にある簡単な材料で作れるので、親子で休みの日の昼食に作りました！という声をたくさんいただきました。

工作では「キャッチボールふうせん」というおもちゃ作りを紹介しました。紙皿とトイレットペーパーの芯と風船を使って本体を作り、ティッシュでボールを作れば完成です。ボールを飛ばしてキャッチするというのが楽しいおもちゃで、実際に作った方から作品の写真と、親子やきょうだいで楽しんだとのコメントをいただき、とても嬉しく思います。

学生ボランティアさんからは「冬に多い病気とその対策」という動画で、新型コロナウイルスだけでなくインフルエンザなどの対策をクイズも交えながら楽しく教えていただきました。メッセージ動画では撮影にご協力頂いた8名の学生さんから、個性あふれる楽しいメッセージがありました。



今回は13家庭15名のお申し込みがあり、小学1年から6年生のお子さんに視聴していただきました。リモート体制のキッズスクールになって早2年。以前のように子どもたち、学生ボランティアさんと一緒にキッズスクールを楽しめる日が来ることを願っております。最後になりますが撮影にあたりご協力いただきました職員・学生の皆様に心から感謝申し上げます。



←【動画を見ながら兄弟で作ってくれたキャッチボール風船】

【お問い合わせ先】

旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1
TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249
開設時間8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp
ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>



病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談

【1月20日～2月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	10回	稼働回数	10回
病児・病後児保育室	依頼回数	15回	利用回数	14回
カウンセリング相談			利用回数	2回

* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます